

伊豆半島地域

熱海市

伊豆の国市

松崎町

函南町*

伊東市

東伊豆町

西伊豆町

下田市

河津町

沼津市*

伊豆市

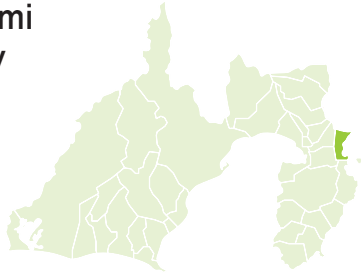
南伊豆町

三島市*

※市町分析チャートは東部地域に掲載

熱海市

Atami City

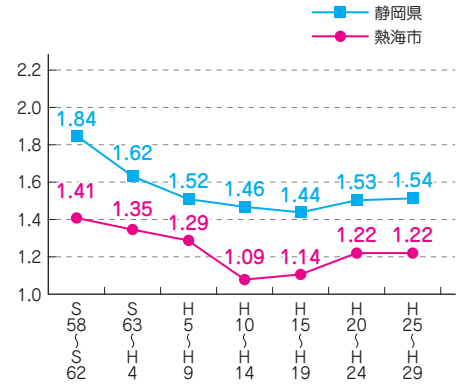


合計特殊出生率 [H25~H29]

1.22

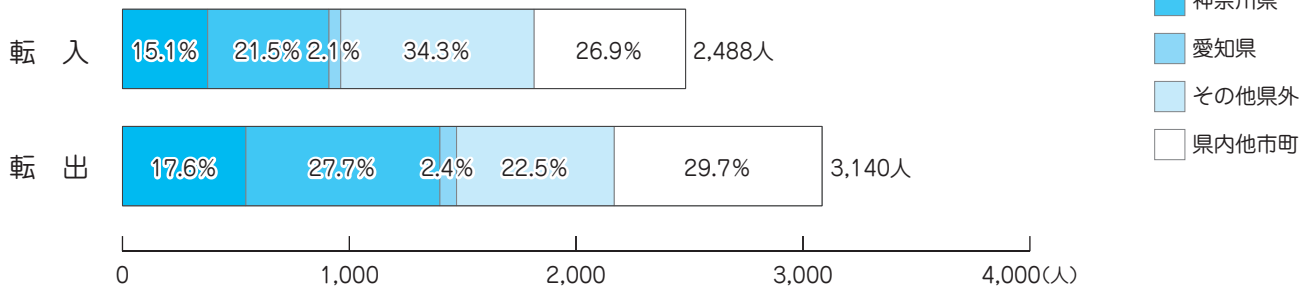
- 人口 36,607人
- 世帯数 21,517世帯
- 総面積 61.78km²

※令和2年1月1日現在



1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20~34歳 【期間】H25~H29年

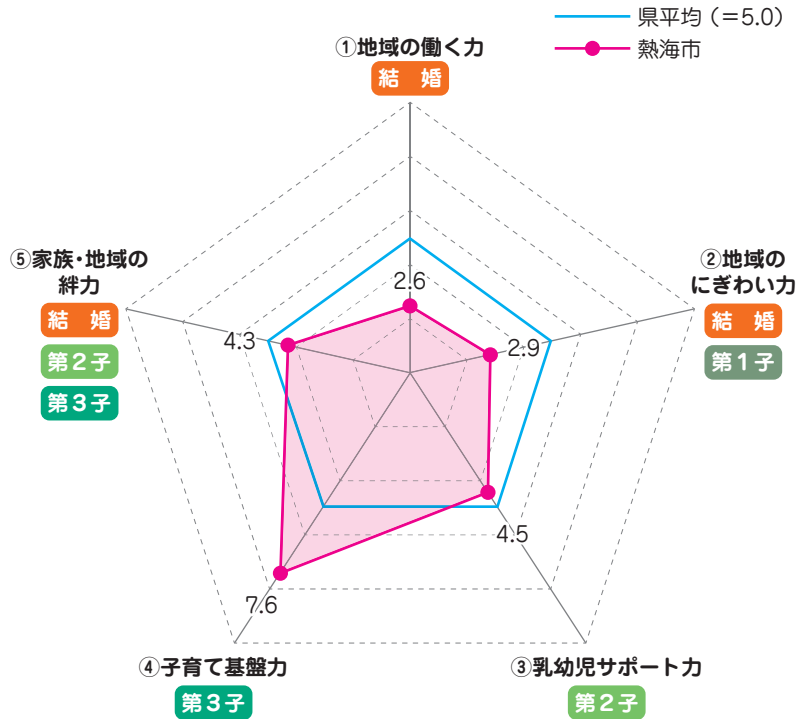


2 合計特殊出生率の要因分解

結婚要因 出生力要因
 第1子 第2子 第3子以上



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「①地域の働く力」「②地域のにぎわい力」「⑤家族・地域の絆力」がいずれも県平均を下回ったため、▲0.35になったと考えられる。

第3子以上要因

「⑤家族・地域の絆力」は県平均を下回ったものの、「④子育て基盤力」は県平均を大きく上回っており、+0.09につながったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

保養型産後ケア事業「ホテルでリフレッシュママ」

《目的》

産後の身体の不調や育児のために自分だけの時間が持てない産後のお母さんを対象に、市内のホテルでマッサージや温泉入浴などにより心も身体もリフレッシュできる場を提供することで、安心して子育てができる環境を整備する。

《概要》

産後一定期間の母子を対象に日帰りで心身のケアや育児サポートを市内のホテルにおいて実施。

- 対象者 産後2～6か月前日までの母親とその子ども（赤ちゃんと未就学のおさんは託児が可能）
- 開催 年6回（対象期間中の利用は1回のみ）
- 定員 各回6組まで
- 利用者負担 3,000円
- 主なメニュー
インストラクターの指導による骨盤ケア、ランチ、マッサージ、助産師による相談、温泉入浴



骨盤ケアの様子



託児中の赤ちゃんの様子

5 わがまちのアピールポイント

●あたまマタニティ・サポート119

事前に登録し、医師や助産師の指示に基づき、出産の兆候が始まったときや、計画出産又は予定日出産等で産院等へ移動するときに、救急車が自宅から産院等まで送迎。

●あたまっ子出産応援金事業

妊娠・出産にかかる保護者の経済的負担を軽減するために出産応援金（胎児1人につき2万円）を支給。

●子育て支援のための公園整備

長浜海浜公園に、3歳未満児用、幼児用、児童用の3つのゾーンに分かれ、子どもの成長に応じて遊べる大型複合遊具を設置。

6 首長からひとこと

あたたかく たのしく みんなで子育て あたみ

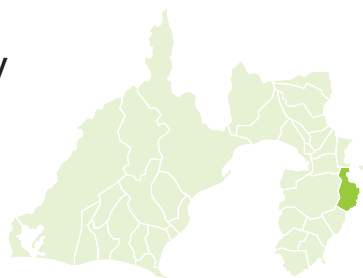


熱海市では、第二期熱海市子ども・子育て支援事業計画に基づき、子育て家庭へのあたたかいサポートや、楽しく子育てをすることにより子どもの健全育成につなげ、地域全体で子育て家庭を支えることを基本方針に掲げ、家庭、地域、教育・保育提供施設、学校、企業、行政などが一体となり、子育て支援策に取り組んでいます。

熱海市長 齊藤 栄

伊東市

Ito City

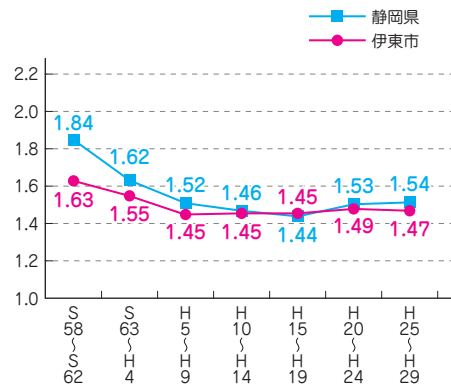


合計特殊出生率
[H25~H29]

1.47

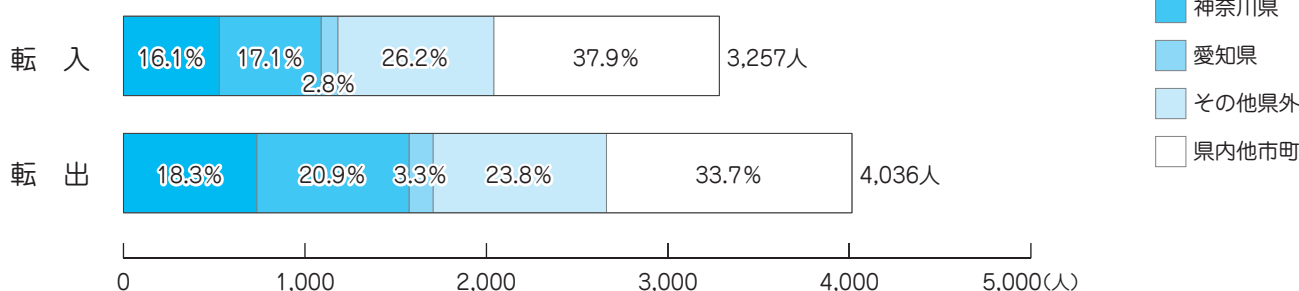
●人口 68,487人
●世帯数 35,393世帯
●総面積 124.10km²

※令和2年1月1日現在



1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20~34歳 【期間】H25~H29年

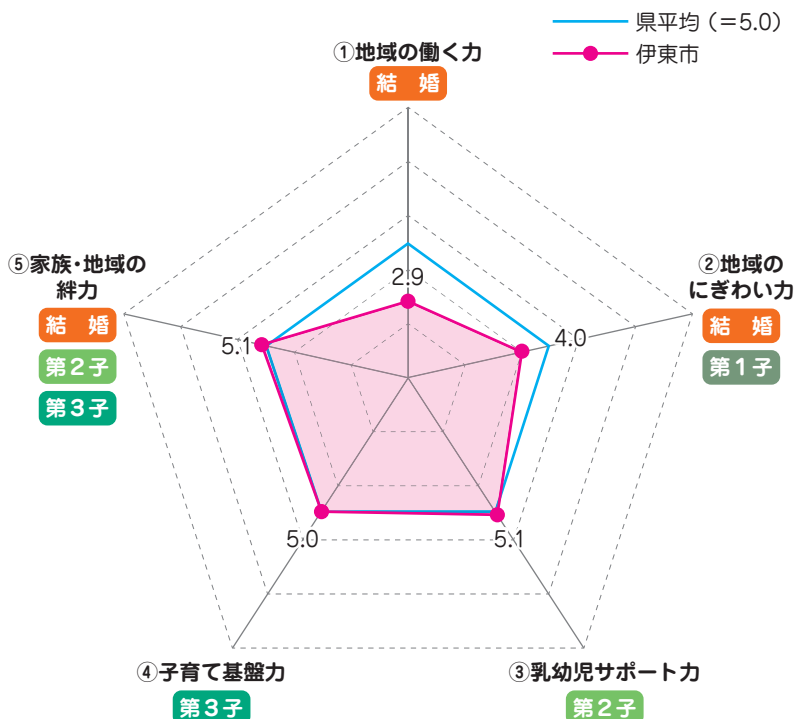


2 合計特殊出生率の要因分解

結婚要因 出生力要因
第1子 第2子 第3子以上



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「⑤家族・地域の絆力」は県平均を上回ったものの、「①地域の働く力」「②地域のにぎわい力」は県平均を下回っており、⑤と①②の効果が打ち消し合い、▲0.04になったと考えられる。

第3子以上要因

「⑤家族・地域の絆力」は県平均を上回っており、+0.05につながったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

いで湯型デイサービス事業

《目的》

産後6か月未満の母親を対象者として、宿泊施設において母体の回復に向けての休息、育児相談を行い、産後変化した母体の改善と育児不安の軽減を図る。

《概要》

- 全国屈指の湧出量を誇る「伊東温泉」のまちであることを活かしたデイサービス事業
- 旅館やホテルを会場に、ヨガ、食事、温泉入浴などができるプランを用意
- 母親がほっと一息つけ、心身ともにリフレッシュできる場を提供
(1人1室利用)
- 利用時は、同一施設内において、保育士等による託児も実施
(対象児のほか、その兄弟姉妹も可)
- 母親同士の交流の場を提供



赤ちゃんが生まれてからは、多忙な日々を過ごされているのではないのでしょうか。そんなママに、明日からの子育てを頑張れるよう、『いで湯の街☆伊東』ならではのサービスをはじめました。

一日の流れ

- 9:30～ 受付
 - 10:00～ ストレッチ体操
 - 11:30～ お食事
 - 13:00～ 休息・相談
 - 15:30 解散
- ※施設内の温泉・アメニティは自由に利用可能です。
※ストレッチは館内着（作業衣）の利用も可能です。
※授乳は託児のお部屋で可能です。哺乳瓶の消毒やお湯は持参不要です。
※未就園のきょうだいは参加できますが、食事などは持参してください。

5 わがまちのアピールポイント

- 市内7か所で子育て支援センターを実施
公共施設、保育所、商業施設内に設置して、子育て中の親子が気軽に利用できる場を充実。
- 放課後児童健全育成事業の充実
放課後児童クラブの拡充により、市内全学区において、児童の健全育成を図る場を提供。
- 子育て世代包括支援センターと子ども家庭総合支援拠点の一体的な運用
母子保健分野と児童福祉分野を同一課が所管することで、妊娠・出産・子育て期にわたり切れ目なく、効果的に支援。また、幼児教育・保育の分野を教育委員会で一体的に運用。

6 首長からひとこと

すべての子どもの健やかな成長を願い、子育てを応援するまち いとう

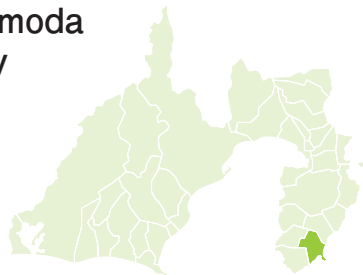


本市では、「未来を拓く取組」を市長経営方針に位置付け、積極的に若者の意見を取り入れるなかで各種施策を展開し、未来を担う全ての子どもが幸せに、そして健やかに成長できる環境づくりを進め、子育て世代が子育てに楽しみや喜び、夢と希望がもてる「子育てのしやすいまち」の実現に向け取り組んでいます。

伊東市長 小野 達也

下田市

Shimoda
City

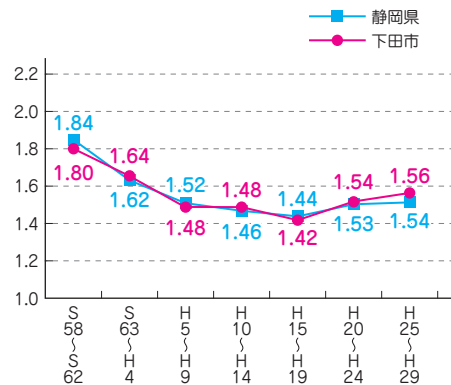


合計特殊出生率 [H25~H29]

1.56

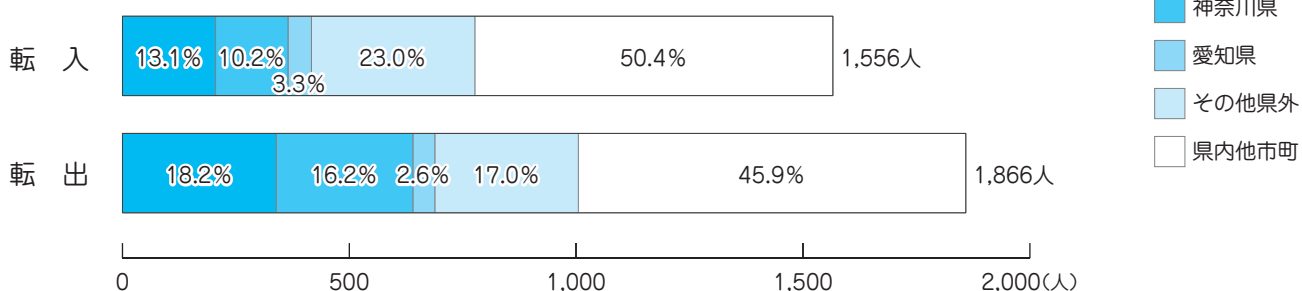
- 人口 21,230人
- 世帯数 10,747世帯
- 総面積 104.38km²

※令和2年1月1日現在



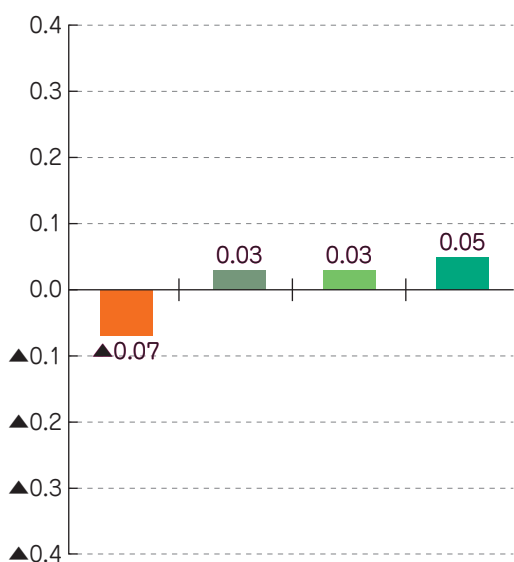
1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20~34歳 【期間】H25~H29年

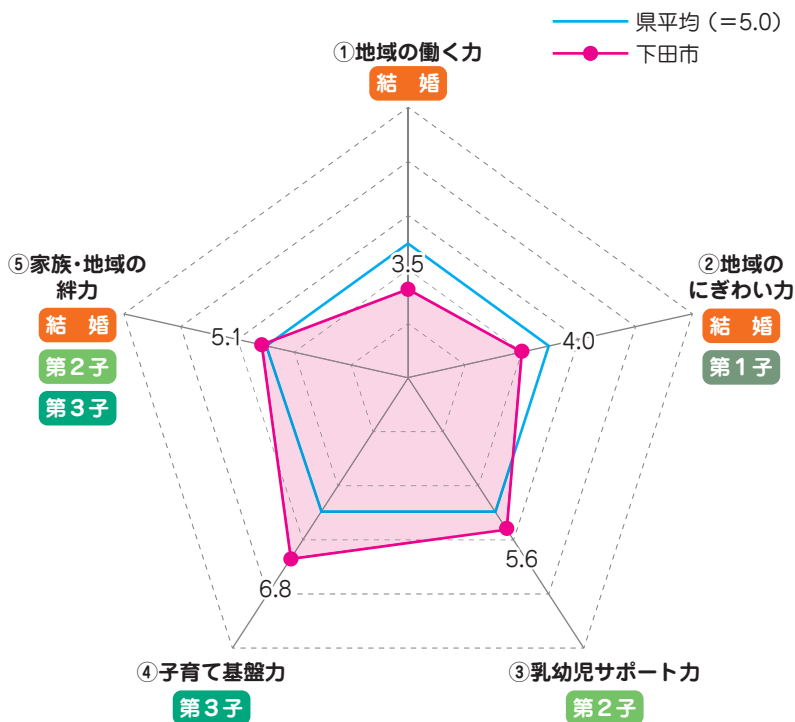


2 合計特殊出生率の要因分解

結婚要因
出生力要因
第1子 第2子 第3子以上



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「⑤家族・地域の絆力」は県平均を上回ったものの、「①地域の働く力」「②地域のにぎわい力」は県平均を下回っており、⑤と①②の効果が打ち消し合い、▲0.07になったと考えられる。

第3子以上要因

「④子育て基盤力」「⑤家族・地域の絆力」がいずれも県平均を上回っており、+0.05につながったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

下田わくわくパーク「これば!」の開催

《目的》

市や子育て支援を行う民間団体等が連携して、多様な世代の集まることのできる「居場所づくり」を進めることで、異年齢児や母親同士の交流の場を提供する。

《概要》

下田市・社会福祉協議会・子育て支援を行う民間団体で構成する「下田子育て支援ネットワーク」が中心となって、市内各所にある公共施設を活用し、地域巡回型の居場所づくり事業を実施。

年10回程度、外部講師や地域のボランティアの協力により様々な内容で開催し、年間1,000人程度の親子が参加している。

(主な内容)

- かけっこ講座
- 伝承遊び
- 竹工作体験



「これば!」竹工作体験の様子



「これば!」の様子

5 わがまちのアピールポイント

● 移住定住支援サポーターや下田マニアメンバーによる移住希望者への支援

市民（移住定住支援サポーター含む。）と移住希望者が集うコミュニティグループ「下田マニア」で知り合いを増やすことで、移住前からの不安の解消や、移住後の定住に向けて安心した生活を送ることができる体制を構築。

● 下田を遊ぶ・学ぶ体験講座

市内の小学生を対象に、下田の魅力を知ってもらうために、市内でできる釣りやサーフィン等の自然体験講座を特別料金で提供。

● 放課後児童クラブの設置

令和5年度までに全小学校地区への設置に向けて事業を推進中。現在7地区中5地区に設置済。

6 首長からひとこと

地域みんなで、親子に寄り添うまち しもだ ～地域ぐるみで「子育て家庭」を支えるまちづくり～

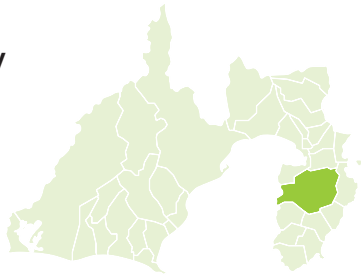


下田市では、「下田で子どもを生みたい」、「下田で子育てしたい」と思っただけの環境づくりを重点施策に掲げて、子育て支援の取組を展開してきました。その結果、合計特殊出生率も僅かではありますが上昇傾向にあり、成果が表れつつあります。これからも、地域全体で子育て支援をし、親が子育てに喜びを見出せるまちを目指して、市民、企業、行政が一体となって挑戦していきます。

下田市長 松木 正一郎

伊豆市

Izu City

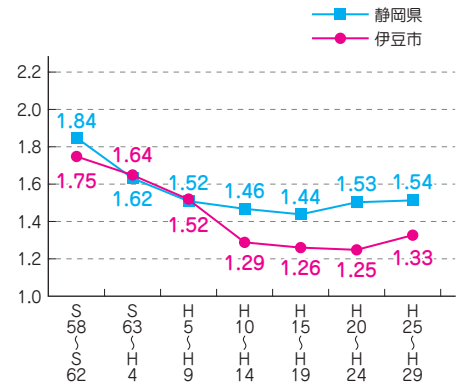


合計特殊出生率
[H25~H29]

1.33

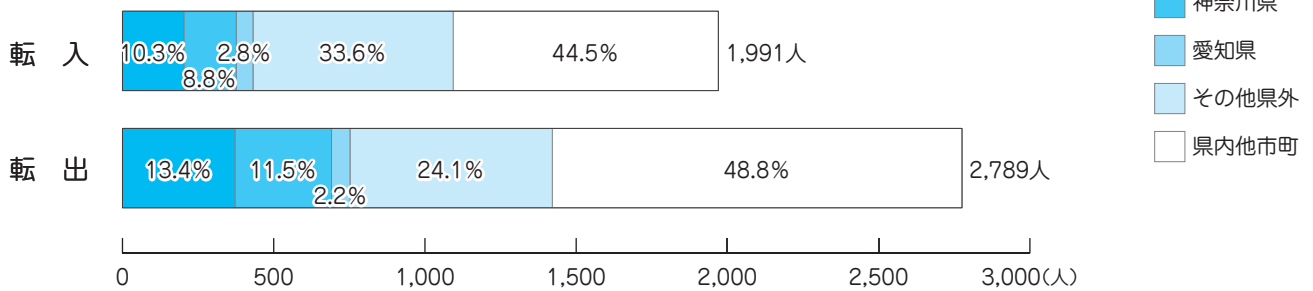
- 人口 30,360人
- 世帯数 13,459世帯
- 総面積 363.97km²

※令和2年1月1日現在



1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20~34歳 【期間】H25~H29年



2 合計特殊出生率の要因分解

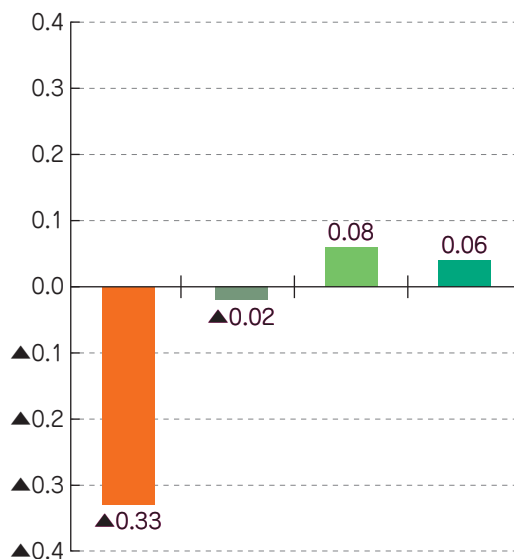
結婚要因

出生力要因

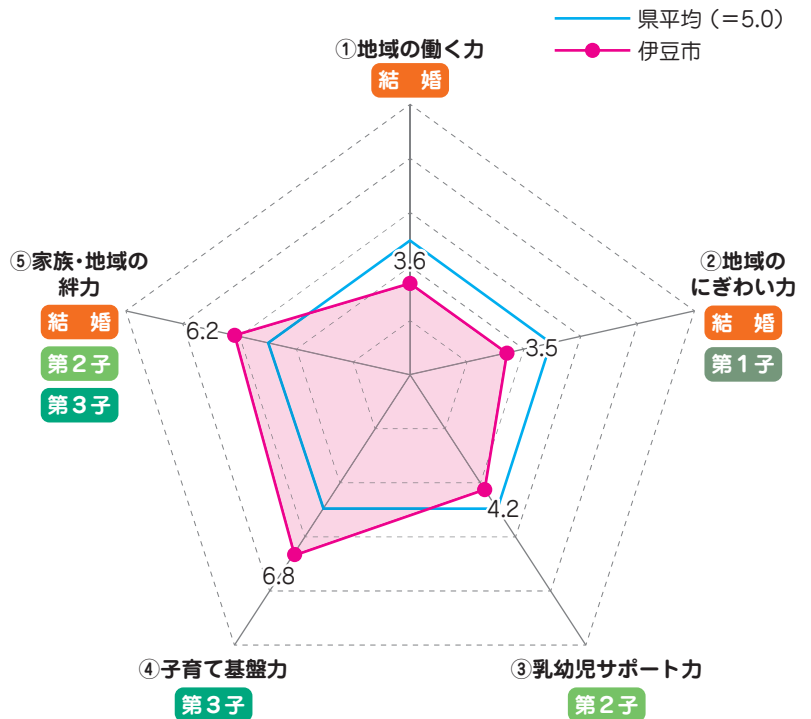
第1子

第2子

第3子以上



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「⑤家族・地域の絆力」は県平均を上回ったものの、「①地域の働く力」「②地域のにぎわい力」は県平均を下回っており、⑤と①②の効果が打ち消し合い、▲0.33になったと考えられる。

第2子要因

「③乳幼児サポート力」は県平均を下回ったものの、「⑤家族・地域の絆力」は県平均を上回っており、+0.08につながったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

「ベビープログラム」～思春期から花ひらく0歳児期からの子育て～

《目的》

0歳の子どもを初めて育てるお母さんが、仲間・絆・学びのプログラムを通して、親子の絆を深め、子どもが思春期をのりこえ社会の中で自立して生きるための力となる“心の安定根”を育む。

《概要》

「仲間づくり」「育児不安の軽減」「子育て知識の学習」をテーマに、トレーニングを受けたベビープログラムファシリテーターにより、安全で安心できる雰囲気の中で、子どもの幸せを願い、親自身が協力しあいながら学び、親として育つ場を提供する。

● 仲間

初めて子育てをするお母さん同士のつながりをサポートし、ママ友づくりを応援する。

● 絆

親が穏やかな気持ちで子どもと接することにより、親子の絆を深める。

● 学び

自分の育児の喜びや困りごと、親としての迷いなどを話し合いながら、少し先を見通した子育てに必要な知識を楽しく学ぶ。



ベビープログラムの様子

5 わがまちのアピールポイント

● 準備は万全！伊豆市で出産 「出産準備金」

妊娠・出産・子育ての応援メニューの一つとして、赤ちゃん1人につき40,000円を支給。赤ちゃんの身の回り品の準備や産科への通院に伴う交通費として活用。

● 妊娠・出産・子育てのワンストップ相談窓口「にじいろ」

伊豆市のお子さんの名前を全て覚えている保健師が、妊娠・出産・子育ての相談にきめ細かくワンストップで対応し、関係機関と連携しながら、伊豆市の妊産婦さんとお子さんを切れ目なくサポート。

● 住むなら伊豆市「若者定住促進補助金」

市内に住宅を購入した若者夫婦世帯に対し、補助金を交付。土地と建物を購入した場合100万円、建物のみ購入した場合50万円、小学生以下のお子さん1人につき10万円を交付。

6 首長からひとこと

親も 子も つながりも みんなで育ててみんなで育つ

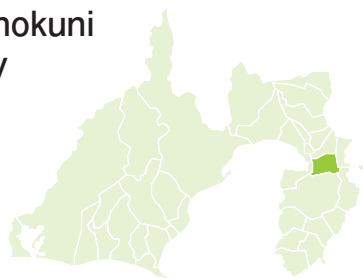


日本有数の観光地、伊豆半島の真ん中に位置する伊豆市。天城連山に抱かれ、清流狩野川が流れ、豊かな駿河湾に面する美しい自然環境と文化の薫るこのまちで、専門のスタッフが出産準備から子育てまで、親身に寄り添って大切なお子さんを育てるサポートをいたします。「家族をつくり、子どもと親がともに育ちあう、まちづくり」を基本理念に少子化対策への取組を推進していきます。

伊豆市長 菊地 豊

伊豆の国市

Izunokuni City

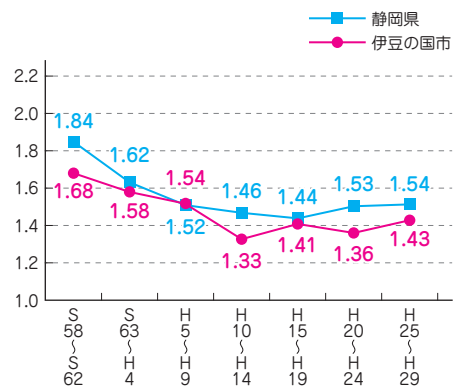


合計特殊出生率
[H25~H29]

1.43

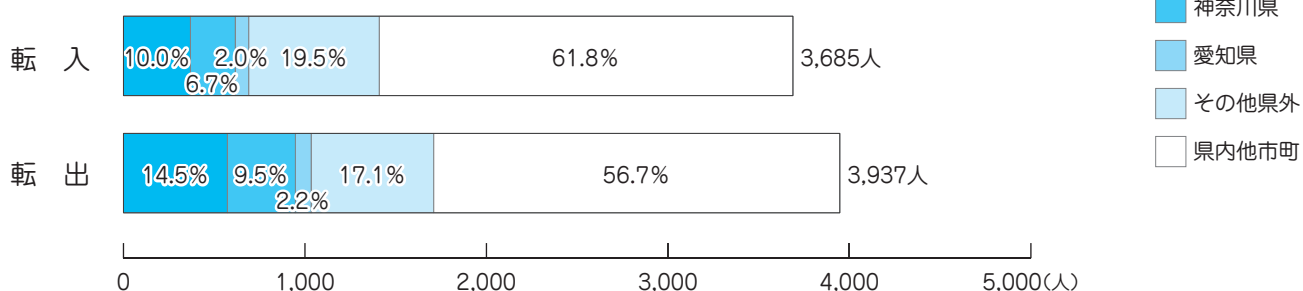
- 人口 48,476人
- 世帯数 21,269世帯
- 総面積 94.62km²

※令和2年1月1日現在



1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20~34歳 【期間】H25~H29年

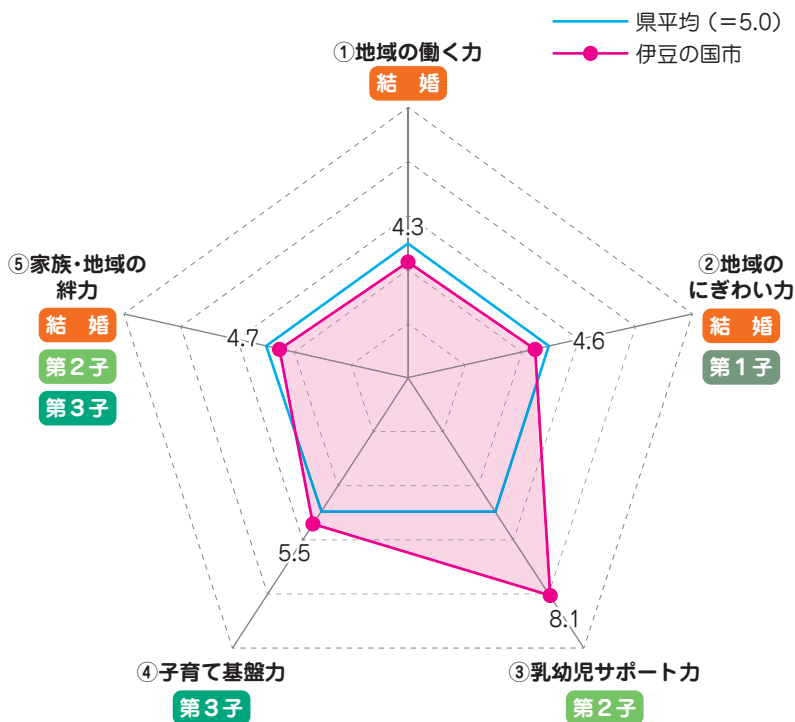


2 合計特殊出生率の要因分解

結婚要因
出生力要因
第1子 第2子 第3子以上



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「①地域の働く力」「②地域のにぎわい力」「⑤家族・地域の絆力」はいずれも県平均を下回ったため、▲0.06になったと考えられる。

第3子以上要因

「⑤家族・地域の絆力」は県平均を下回ったものの、「④子育て基盤力」は県平均を上回っており、+0.03につながったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

切れ目ない子育て支援体制

《目的》

子育て世代包括支援センターや子育て支援拠点の設置、母子健診や相談の充実などにより、子育ての不安を解消し、若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える。

《概要》

- 子育て世代包括支援センター
生まれる前からサポート！ 母子健康手帳交付時に全ての妊婦の皆さんに面接を行い、疑問や不安の解消を支援。
- 子育て支援拠点「すみれ」・「たんぽぽ」・「こども広場」
ママの交流の場としても最適！ 保育士が常駐しているので、子育ての悩みをいつでも気軽に相談可能。
- のびのび相談会
育児不安や発育発達について個別に相談会を実施！
必要に応じて臨床心理士による心理相談も実施。



親子で運動遊びの様子



のびのび相談会の様子

5 わがまちのアピールポイント

● 市立幼稚園の預かり保育を拡充

長期休業中の預かり保育に加え、平日の教育時間の前後にも預かり保育を実施。

● 新生活応援補助金

ともに 40 歳未満の夫婦又は小学生以下の子どもがいる家族を対象に、静岡県外から伊豆の国市に移住し、定住しようとする世帯に、住居費及び引越費用の一部を補助。

● 創業等支援事業費補助金

商工会が実施するセミナー「伊豆の国創業塾」を修了し、市内に事業所を構えて創業又は引き続き市内に事業所を構えて事業継承した人を対象に、創業に必要な経費などの 1/2（上限 50 万円）を補助。

6 首長からひとこと

誰もが希望をもって歩んでいける社会を目指して

～子どもと子育て家庭を社会全体で支える環境整備～

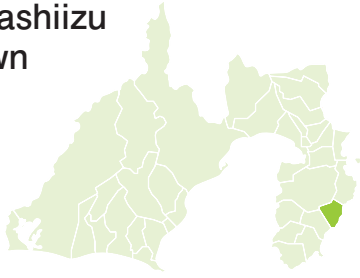


本市では、令和 2 年 3 月に策定した第 2 次子ども・子育て支援事業計画に基づき、安心して子どもを生み育てられる環境づくりを推進しています。子どもにとっての最善の利益の実現、自助・共助・公助に基づく地域全体で子ども・子育て家庭を支える社会の構築を目指します。

伊豆の国市 小野 登志子

東伊豆町

Higashiizu
Town

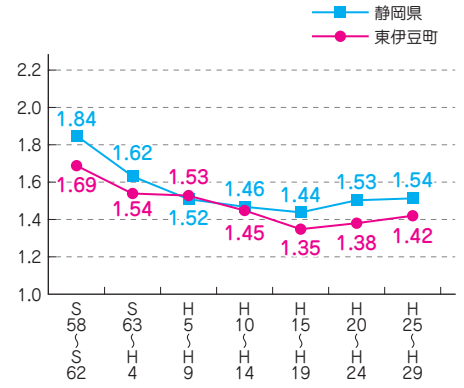


合計特殊出生率
[H25~H29]

1.42

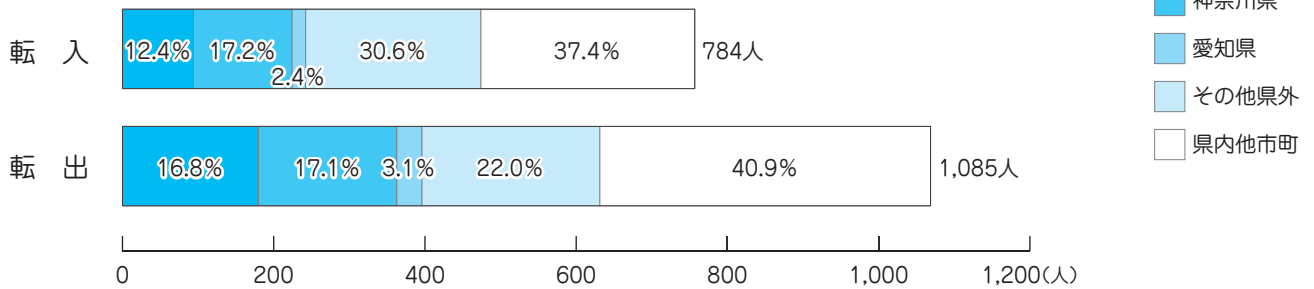
- 人口 12,086人
- 世帯数 6,255世帯
- 総面積 77.81km²

※令和2年1月1日現在



1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20~34歳 【期間】H25~H29年



2 合計特殊出生率の要因分解

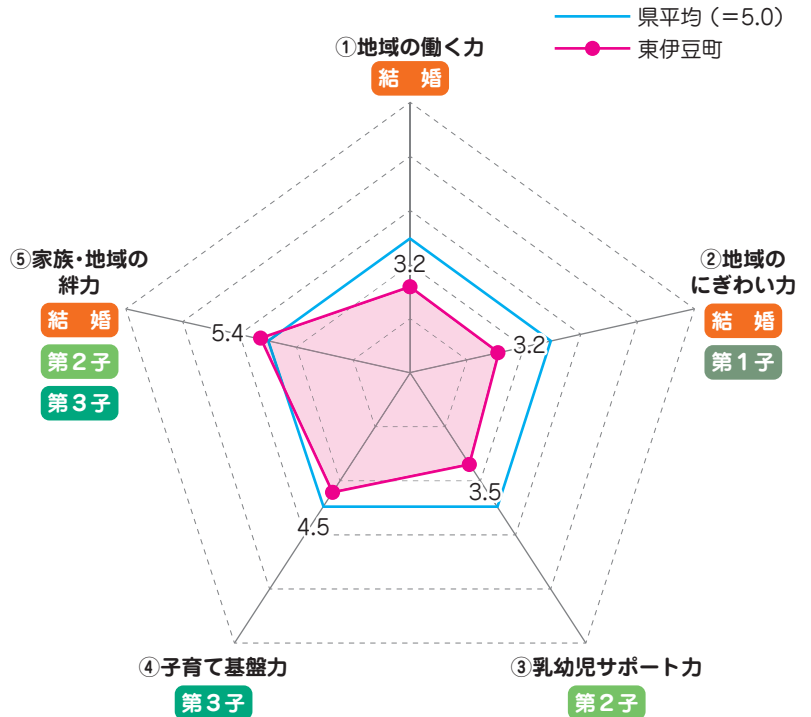
結婚
要因

出生力要因

第1子 第2子 第3子以上



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「⑤家族・地域の絆力」は県平均を上回ったものの、「①地域の働く力」「②地域のにぎわい力」は県平均を下回っており、⑤と①②の効果が打ち消し合い、▲0.13になったと考えられる。

第3子以上要因

「④子育て基盤力」は県平均を下回ったものの、「⑤家族・地域の絆力」は県平均を上回っており、+0.14につながったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

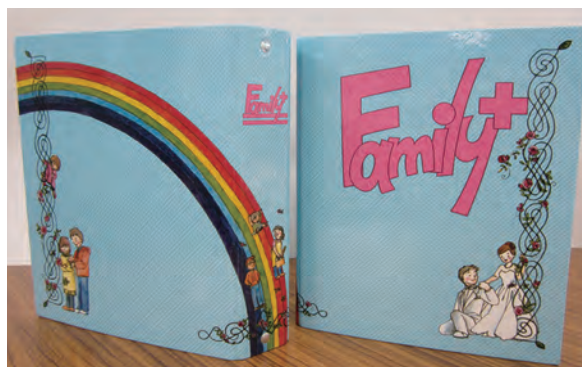
家族手帳「Family+」事業

《目的》

結婚した夫婦に対し、妊娠・出産・子育てに関する全ての情報を提供することによって、この町で子育てをするビジョンを持ち、妊娠、出産や子育てへの不安を取り除き夢や希望を持たせるとともに、夫婦でライフプランを描いてもらう。

《概要》

1冊の中に町内で妊娠、出産、子育てを行う上での全ての情報を網羅、集約し、かつ家族が増えていく様子を記録できるバインダー式冊子を婚姻したご夫婦に贈呈。



バインダー式冊子

(バインダーの中身)

- 婚姻、出産届の写し（町長お祝い文付・カラー印刷）
- 庁内全課における妊娠、出産、子育て、子どもに関する事業や情報
- 母子手帳、エコー写真、子ども医療費受給者証等保管用ポケット等



出産時の案内例

5 わがまちのアピールポイント

● 子育てに関するさまざまな教室を実施

パパママ教室やあかちゃん教室、育児サークルなど親と子の交流、情報共有の場づくり。

● 子宝祝金による多子世帯への経済的支援

第2子に10万円、第3子に20万円、第4子以降に30万円を支給。

● 働く親を応援！子どもの預かり体制の充実

保育ママ制度やファミリーサポートセンター事業、放課後児童クラブなど、用途に合わせて利用いただける子育てサポート。

6 首長からひとこと

みんなが安心してくらせる町 笑顔があふれる町づくり

～満点の海・山・空は東伊豆～

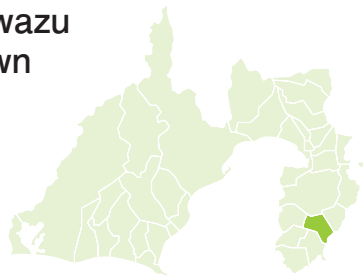


東伊豆町は、安心して子どもを産み育てられ、子育ての喜びを分かち合える環境づくりを地域一丸となって取り組み、子どもの声が町中であふれる明るい町を目指します。また、不妊治療助成や子ども医療費助成など経済的支援も引き続き取り組んでまいります。

東伊豆町長 太田 長八

河津町

Kawazu
Town

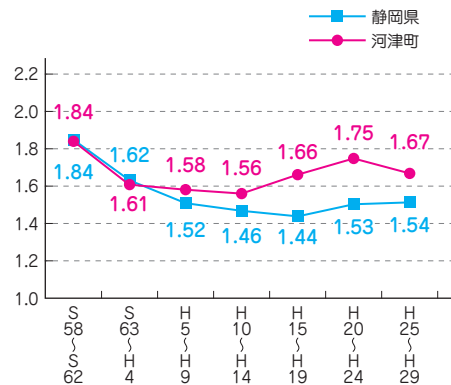


合計特殊出生率
[H25~H29]

1.67

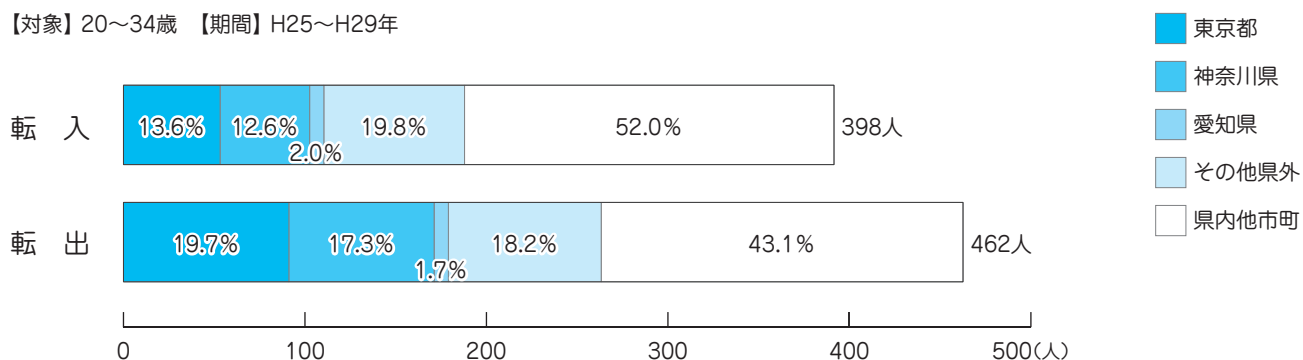
●人口 7,189人
●世帯数 3,340世帯
●総面積 100.69km²

※令和2年1月1日現在



1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20~34歳 【期間】H25~H29年

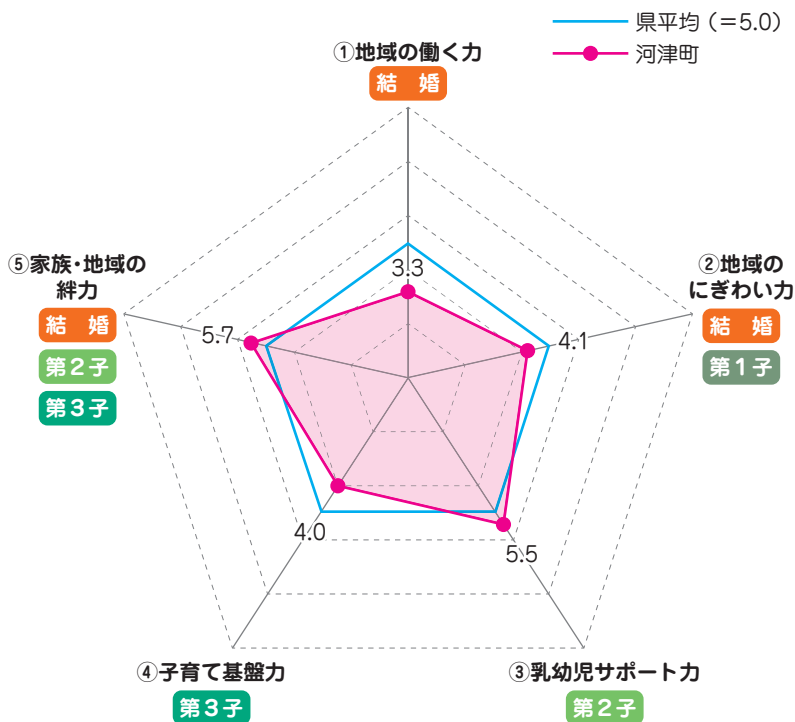


2 合計特殊出生率の要因分解

結婚要因
出生力要因
第1子 第2子 第3子以上



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「①地域の働く力」「②地域のにぎわい力」は県平均を下回り、「⑤家族・地域の絆力」は県平均を上回ったものの、今回分析対象とした指標以外の「独自の地域特性」の影響により、+0.06になったと考えられる。

第3子以上要因

「④子育て基盤力」は県平均を下回ったものの、「⑤家族・地域の絆力」は県平均を上回っており、+0.18につながったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

結婚・出産等に対する助成金の支給と子育て世帯への住宅整備費助成金

《目的》

新たに夫婦となった2人の門出や子どもの誕生を祝うとともに、結婚や出産・子育ての経済的負担の軽減を図ることにより、家庭を築き、子どもを生み育てやすい環境を整備する。

《概要》

●結婚祝金

- ・支給金額：10万円 / 組

●不妊治療費助成金

- ・治療経費だけでなく、医療機関への交通費（鉄道賃）のうち自己負担となる経費も助成対象としている。

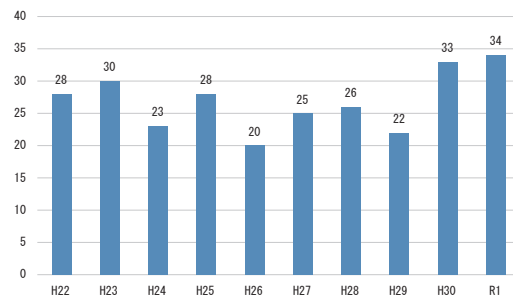
●出産費助成金

- ・支給金額：10万円 / 出産1回
※多胎の場合、出産児のうち1人を除いた子ども1人につき5万円を加算

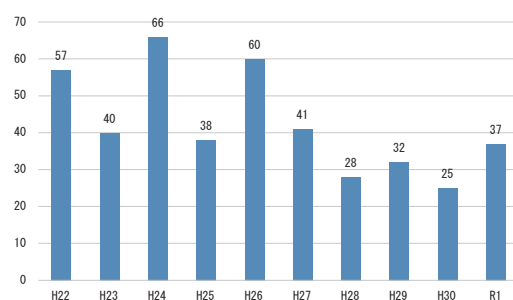
●子育て応援！住宅整備事業補助金

- ・支給金額：補助対象経費の1/10（15万円を上限）

婚姻件数の推移



出生数の推移



5 わがまちのアピールポイント

●河津桜や温泉があり、自然環境に恵まれている

自然環境がよく、賀茂地域の交通結節点であり、若い世代が住みたいと思う地理的優位性。

●移住・定住や地域活性化事業

移住・定住人口の拡大や地域活性化を促進するため、空き家情報バンク事業や婚活イベントを実施。

●子育て支援センターを建設予定

安心して子どもを生み、楽しく子育てできる子育て基盤の充実を図るため、地域子育て支援拠点事業等を実施する予定。子育て中の親子に情報交換や仲間づくりの場を提供することにより、子育て中に孤立しがちな親子の育児不安解消を図り、子どもが家庭や地域に見守られながら、笑顔で健やかに成長できるまちづくりを目指す。

6 首長からひとこと

支えあい、助けあい、みんなで育てるまち かわづ

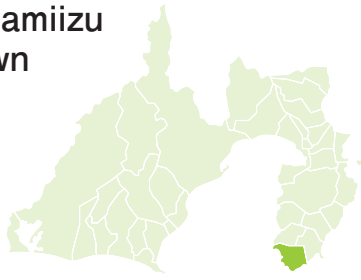


河津町は「心豊かな暮らしやすい町」を目標にまちづくりに挑んでいます。子育てしやすい環境で心豊かな人を育てるために、地域における子育て支援の充実、子育てにやさしい生活環境の整備、きめ細かな取組を必要とする子どもと家庭への支援を総合的に進め、安心して安全な子育て環境の整備を継続していきます。

河津町長 岸 重宏

南伊豆町

Minamiizu Town

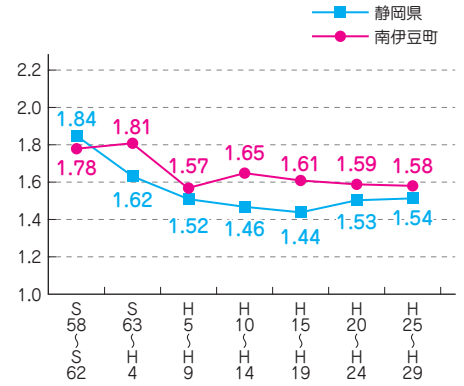


合計特殊出生率
【H25～H29】

1.58

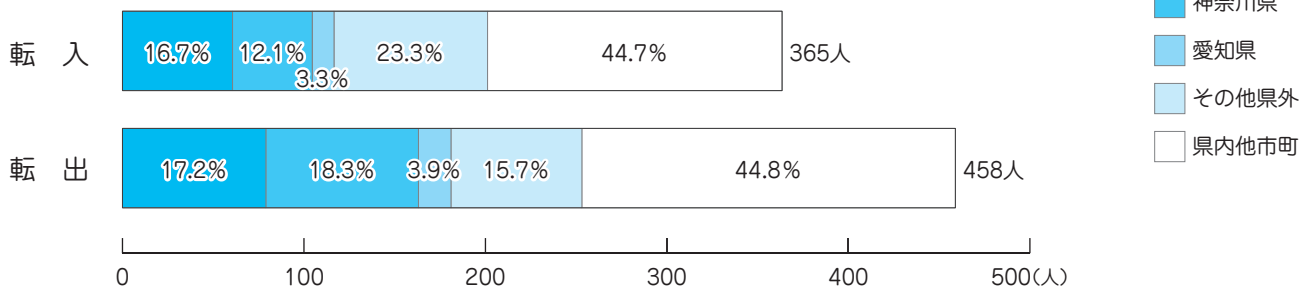
●人口 8,167人
●世帯数 3,883世帯
●総面積 109.94km²

※令和2年1月1日現在



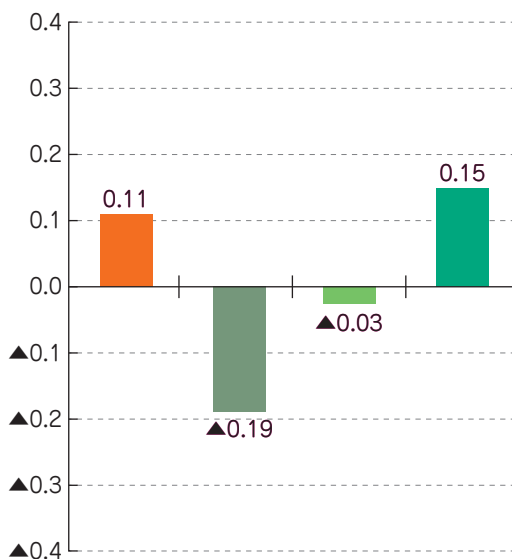
1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20～34歳 【期間】H25～H29年

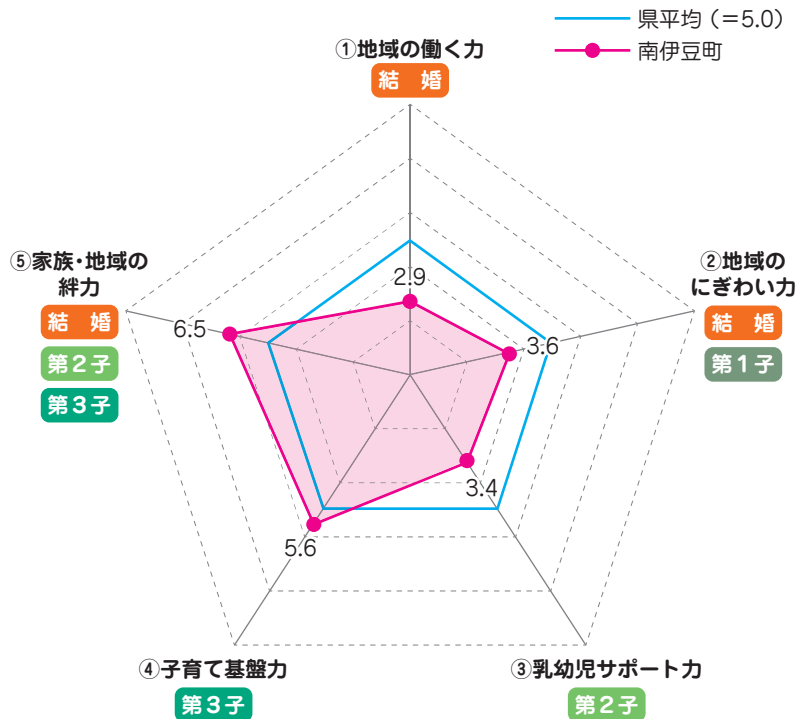


2 合計特殊出生率の要因分解

結婚要因
出生力要因
第1子 第2子 第3子以上



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「①地域の働く力」「②地域のにぎわい力」は県平均を下回り、「⑤家族・地域の絆力」は県平均を上回ったものの、今回分析対象とした指標以外の「独自の地域特性」の影響により、+0.11になったと考えられる。

第3子以上要因

「④子育て基盤力」「⑤家族・地域の力」はいずれも県平均を上回っており、+0.15につながったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

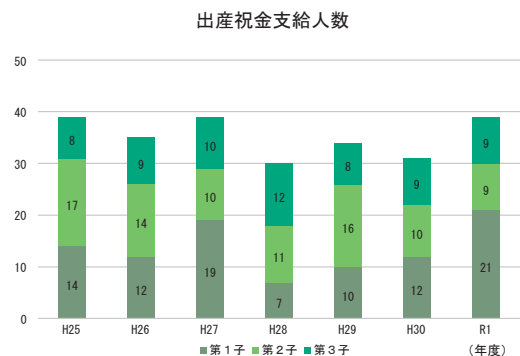
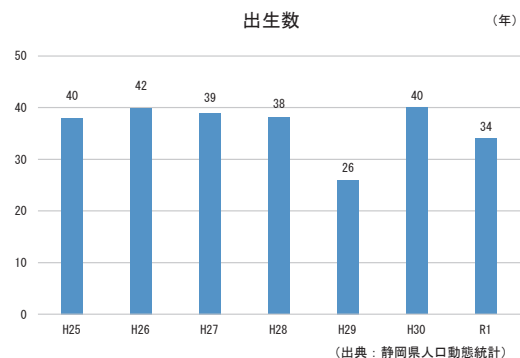
出産祝金

《目的》

町の次代を担う子どもの誕生を祝い、出生児の健やかな成長を願うとともに、子育て世帯の経済的負担の軽減を図る。

《概要》

- 出生児の父、又は母に対して、出産祝金を支給する。
(平成 31 年 4 月より、支給額を増額)
- 支給額
 - ・ 第 1 子：15 万円
 - ・ 第 2 子：20 万円
 - ・ 第 3 子以降：25 万円
- 事業開始：平成 25 年度
- 旧制度支給額
 - ・ 第 1、2 子：5 万円
 - ・ 第 3 子以降：10 万円



5 わがまちのアピールポイント

● 「子育てだけじゃない!!」子育て支援拠点施設整備

令和 2 年度に整備した地域子育て支援センターは、子育て支援事業を行うだけでなく、ワークスペースや企業と地域がつながる場としての機能も有する施設。子どもと一緒にワーケーション滞在が可能で、他にも地元雇用や地域事業者とのマッチングなどの事業も展開。

● 教育資金の借入利子「全額」補給により、子育て世帯の経済的負担を軽減

● ふるさと公園の遊具整備

子どもから高齢者まで多くの町民が利用するふるさと公園に遊具を整備。町民の憩いの場を提供。

● 小中学校バス通学全額補助及び高校生バス通学費補助制度

遠方から通学する小中学生のバス代を全額補助。バスを利用して通学する高校生の定期購入代の半額を補助。

6 首長からひとこと

自然の中で笑顔があふれ、子どもが、親が、地域が育つまち

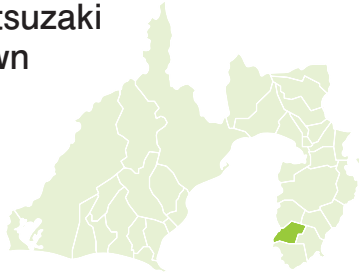


本町では、令和 2 年 3 月に策定した第 2 期子ども・子育て支援事業計画に基づき、妊娠から出産、育児まで切れ目のない支援の充実を図るとともに安心して子どもを産み育てられる環境づくりを推進していきます。地域全体で子育てを支援し、親が子育てに喜びを見出せるまちを目指します。

南伊豆町長 岡部 克仁

松崎町

Matsuzaki
Town

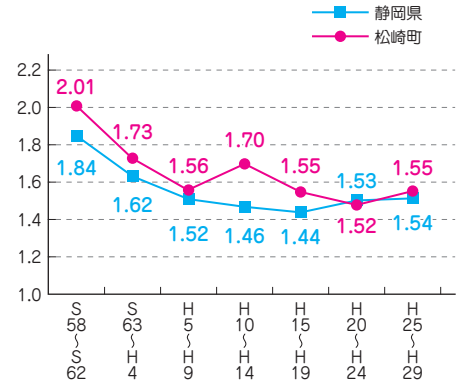


合計特殊出生率
[H25~H29]

1.55

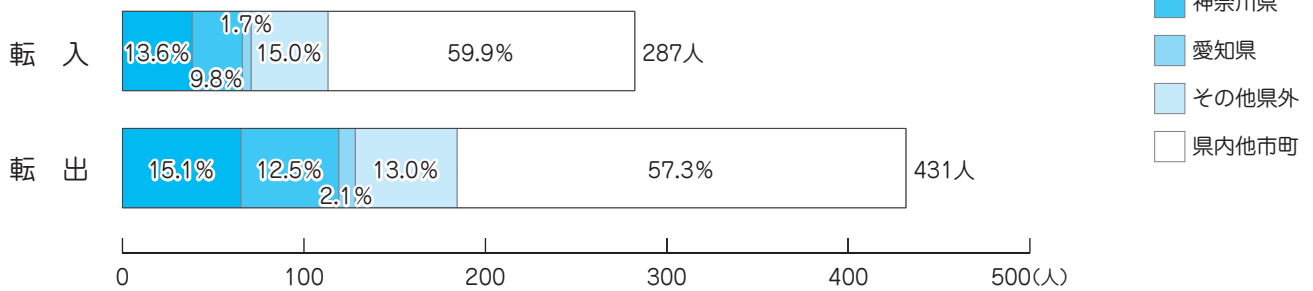
●人口 6,507人
●世帯数 2,960世帯
●総面積 85.19km²

※令和2年1月1日現在



1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20~34歳 【期間】H25~H29年



2 合計特殊出生率の要因分解

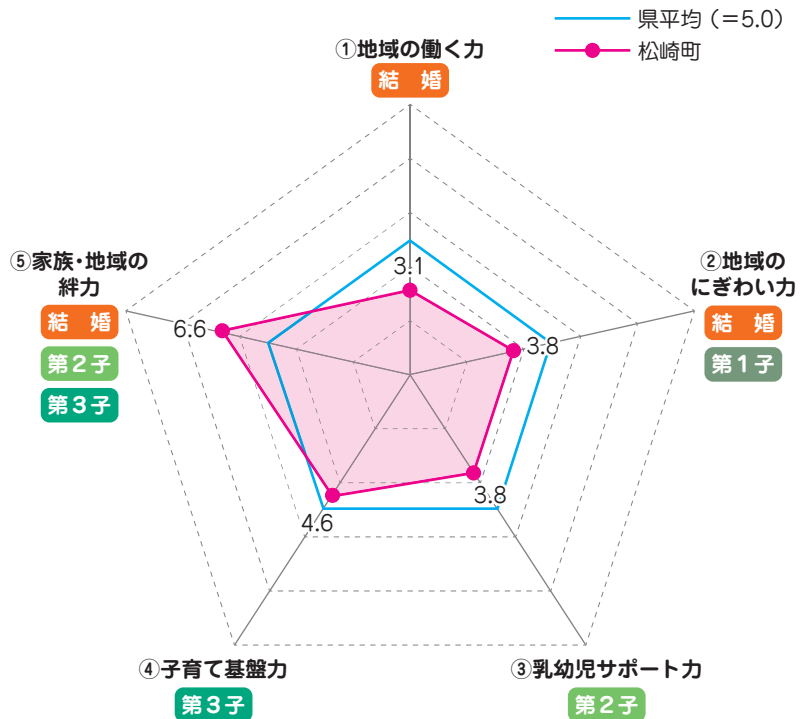
結婚要因

出生力要因

第1子 第2子 第3子以上



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「①地域の働く力」「②地域のにぎわい力」は県平均を下回り、「⑤家族・地域の絆力」は県平均を上回ったものの、今回分析対象とした指標以外の「独自の地域特性」の影響により、0.00になったと考えられる。

第3子以上要因

「④子育て基盤力」は県平均を下回ったものの、「⑤家族・地域の絆力」は県平均を上回っており、+0.09につながったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

小学校入学、中学校入学・卒業者を対象とした子育て支援祝い品支給

《目的》

入進学、卒業の際に衣類や学用品等が必要となるため、子育て世帯の経済的な負担を軽減し、子どもたちの健全な成長を祝う。

《概要》

●対象者

4月1日現在において、町内に1年以上住所があり、次のいずれかに該当する子どもの保護者

- ①申請年度の翌年度に、小学校または中学校に入学する子どもの保護者
- ②申請年度に中学校を卒業する子どもの保護者

●祝い品

松崎町ロマンシール商品券 3万円分

「子育て支援祝い品」の支給について

松崎町では、子育て支援の一環として、平成28年度に「子育て支援祝い品」を創設しました。
この「子育て支援祝い品」支給制度は、将来を担う子ども達の健全育成と、入学や新生活時の経済的不安の解消を図るために創設された町独自の支援制度です。入学等に必要なお金やカバン、衣類など、お子さんの新生活のためにお役ください。
祝い品の支給対象となっている方は、申請書に必要事項を記入し期限までに提出してください。期限までに申請がない場合は、祝い品を支給することができませんのでご注意ください。（町内の幼稚園、保育園、小中学校に在籍しているお子さまについては、園や学校を通じて申請書を配布させていただきました。）

【祝い品】 松崎町ロマンシール商品券が発行するロマンシール商品券 30,000円分（1,000円券×30枚）
【支給対象者】 4月1日において、在籍が1年以上住所があり次のいずれかに該当する方 (1) 申請年度の翌年度に小学校または中学校に入学する子どもを養育している保護者 (2) 申請年度末に中学校を卒業する子どもを養育している保護者
【申請方法】 下記受付期間内に申請書に必要事項を記入し提出してください。申請書は返還にありません。
【申請場所】 松崎町役場 健康福祉課（申請書を持参してください）
【受付期間】 申請年度の11月頃から翌年3月未まで（受付開始時期は年度によって異なります） ※申請書提出後から申請書の受付はできませんのでご注意ください。



支給される商品券

5 わがまちのアピールポイント

●子育て世帯が気軽に利用できる一時預かり事業

保護者が買物や用事を済ませたいとき、リフレッシュしたいときなどに児童館に一時預けが可能。自己負担なしで、対象は満1歳から小学校就学前まで。

●子育て親子が誰でも利用できるひよこ相談

子育ての情報交換・悩みを共有できる場をつくるために児童館で定期的を実施。子どもの発育状況の確認・親子の交流の場となっている。地域のボランティアによるブックスタート事業も併せて実施。

●健康・医療相談「ホットライン」

妊娠・出産・育児など健康に関するあらゆる相談を、ベテラン相談員（保健師、看護師、栄養士など）が24時間年中無休で対応（相談・通話料無料）。

6 首長からひとこと

未来へつなごう 子育ての輪

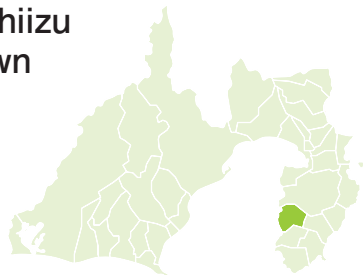


社会の変化とともに子育てや仕事に対する意識が変化し、夫婦共働きの子育て世帯が増加しています。それらの変化に対応するため、町では、保護者、家庭が抱える子育てに関する不安や負担感の軽減を図るため、相談できる場・情報提供の場の拡充を目指します。また、少子化が進み地域の子どもが減少している今、地域の子どもは地域で守るという意識を持ち、安心して子どもを育てることのできるまちづくりを推進してまいります。

松崎町長 長嶋 精一

西伊豆町

Nishiizu
Town

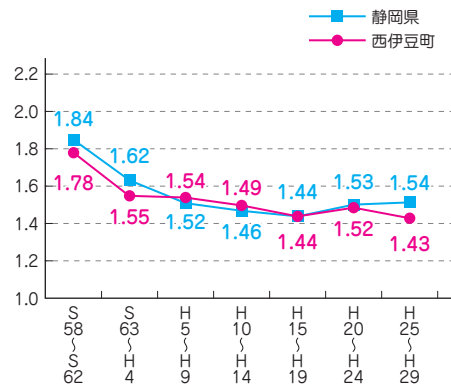


合計特殊出生率
[H25~H29]

1.43

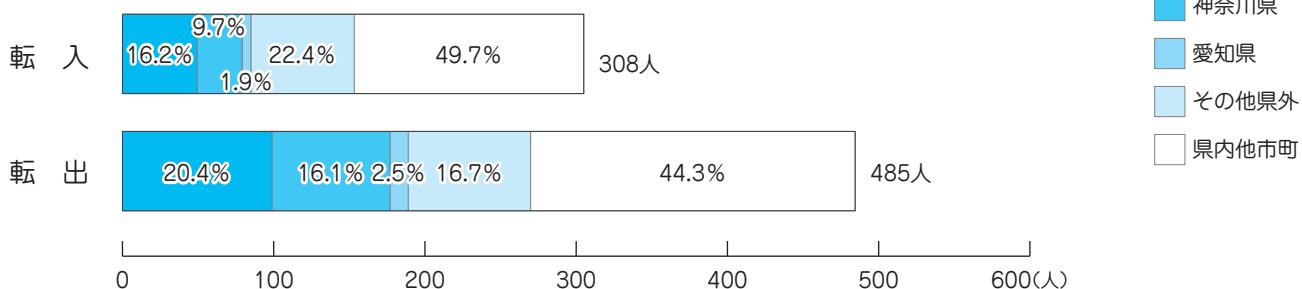
●人口 7,741人
●世帯数 3,757世帯
●総面積 105.54km²

※令和2年1月1日現在



1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20~34歳 【期間】H25~H29年



2 合計特殊出生率の要因分解

結婚
要因

出生力要因

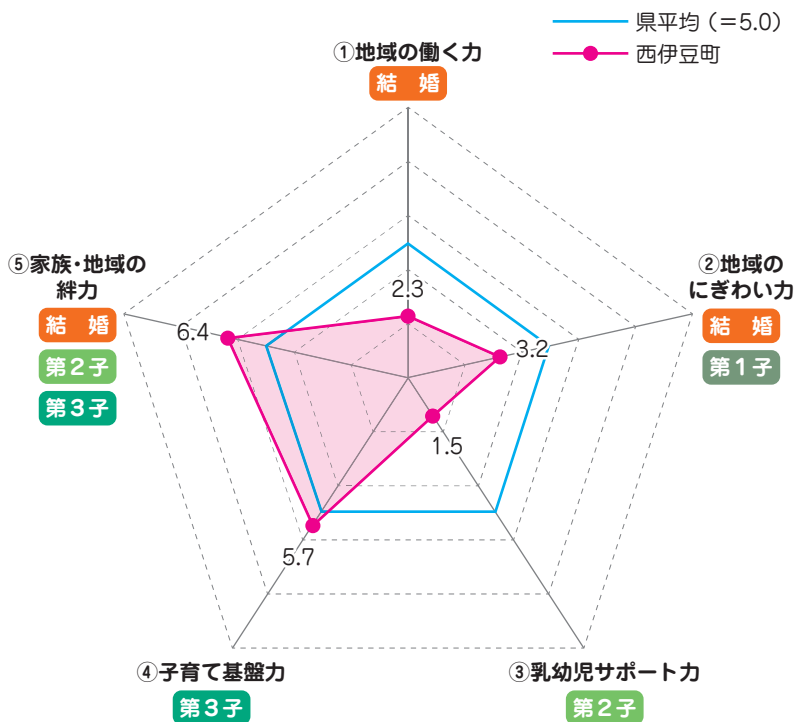
第1子

第2子

第3子以上



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「⑤家族・地域の絆力」は県平均を上回ったものの、「①地域の働く力」「②地域のにぎわい力」は県平均を大きく下回っており、⑤と①②の効果が打ち消し合い、▲0.09になったと考えられる。

第3子以上要因

「④子育て基盤力」「⑤家族・地域の絆力」はいずれも県平均を上回っており、+0.05につながったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

保育料等の完全無償化

《目的》

町内の認定こども園の保育料と副食費を無償化することにより、子育てしやすい環境を整え、出生数、出生率の増加を図る。

《概要》

町内に住所を有し、居住する児童が町内の認定こども園に通う場合、年齢、条件を問わずに保育料・副食費を完全無償化。子育て世代が、子どもを産み、育てやすい環境をつくることで、出生数の増加のみならず、子育て世代のわが町への移住促進にも繋げる。

● 町内の教育・保育施設

- ・ 仁科認定こども園（定員 96 名）
- ・ 伊豆海認定こども園（定員 70 名）

● 児童数の推移（2 施設）

平成 30 年度：93 名
令和元年度：93 名
令和 2 年度：82 名



給食の様子



ALT による語学指導の様子

5 わがまちのアピールポイント

● ALT による認定こども園、小中学校での外国語指導と国際交流活動

語学学習指導等を行う外国青年招致事業（ジェットプログラム）を活用し、3名の外国語指導助手と1名の国際交流員を任用。アメリカやジャマイカ、バルバドスなど世界各国から来日した指導員が、町内全ての認定こども園と小中学校で語学指導を行い、子ども達の国際教育を充実。

● サンセットコイン事業

町独自の電子地域通貨『サンセットコイン』を全町民に配布し、子どもからお年寄りまで、町内店舗にてキャッシュレスでお買い物。健康マイレージ事業や観光施策とも連携し、町内循環型の経済対策を展開中。

6 首長からひとこと

「子育て」と「育ち」に優しいまち 西伊豆



町では「『子育て』と『育ち』に優しいまち」を基本理念とし、子育て家庭の支援や、子どもを健やかに育てるための環境づくり、また子育てを通じての地域づくりを推進しています。豊かな自然とコンパクトなまちの強みを生かし、子ども一人ひとりの成長を地域全体で支援し、安心して子どもを育てられる“まち”を目指しています。

西伊豆町長 星野 浄晋